

設計調書： VIII 仮設構造物詳細設計



# 仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（1 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。              ①砂質土              ②粘性土 N&gt;5              ③粘正土 N≤5          2. ボーリング図の出典を記入すること。          3. 水位を明示すること。          4. 設計地盤面を明示すること。          5. 土留杭の施工方法を明示する。          6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。          7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

# 仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（2 / 6）

項 目			設 計 結 果		備 考	
			計 算 値	使 用 値		
土留工（自立式・支保工式）	親杭	土	根入長 <sup>※1</sup>			<sup>※1</sup> 1.5m以上（岩盤の場合別途） <sup>※2</sup> H-300以上
			断面寸法 <sup>※2</sup>			
		留方	応 力 度			
			支 持 力			
		杭等	最大変位			
			土留板	断面寸法 <sup>※3</sup>		
	応 力 度					
	鋼矢板方式等 <small>（柱列式土留含む）</small>	鋼矢板	根入長			<sup>※4</sup> III型以上（鋼矢板の場合かつ市街地の場合）  <sup>※5</sup> 30cm以内（鋼矢板の場合）
			断面寸法 <sup>※4</sup>			
			応 力 度			
最大変位 <sup>※5</sup>						
支保工	腹起し <small>段目</small>	間 隔 <sup>※6</sup>			<sup>※6</sup> 垂直3.0m程度以下、頂部より1m程度以内（無覆工の場合を除く）  <sup>※7</sup> H-300以上	
		断面寸法 <sup>※7</sup>				
		応力度及び安全度				
	切はり <small>段目</small>	間 隔 <sup>※8</sup>			<sup>※8</sup> 水平5.0m以下、垂直3.0m程度以下  <sup>※9</sup> H-300以上	
		断面寸法 <sup>※9</sup>				
		応力度及び安全度				
	火打ち	断面寸法			（注 <sup>1</sup> ）：次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) 掘削完了時 (b) 最下段切はり設置直前 (c) 撤去時 (d) 盛替時	
		応 力 度				
	中間杭	間 隔			（注 <sup>2</sup> ）：次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) （つりあい深さ）×1.2以上 (b) ボイリングに対する必要長 (c) ヒーピングに対する必要長 (d) 3.0m以上	
		断面寸法				
		支 持 力				
	特記事項					（注 <sup>3</sup> ）：「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。

# 仮設構造物詳細設計調書（締切工）（3 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
	(断面図)	(ボーリング図)																																																								
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
		(平面図)																																																								

- (注) 1. 土の種類は次のとおり。  
 ①砂質土  
 ②粘性土 N>5  
 ③粘正土 N≤5  
 2. ボーリング図の出典を記入すること。  
 3. 水位を明示すること。  
 4. 設計地盤面を明示すること。

# 仮設構造物詳細設計調書（締切工）（4 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考		
		計 算 値	使 用 値			
締切工	自立式	チャンネルの式	根入長 <sup>※1</sup>		<sup>※1</sup> 仮想地盤面 + $\pi / \beta$ 又は $2.5 / \beta$ <sup>※2</sup> Ⅱ型以上 （公衆に係わる区域においてはⅢ型以上）	
			断面寸法 <sup>※2</sup>			
			応 力 度			
			最大変位 <sup>※3</sup>			<sup>※3</sup> 自立高の3%以内
		モーメント釣合法	根入長 <sup>※4</sup>		<sup>※4</sup> （つりあい深さ） × 1.2以上 <sup>※5</sup> Ⅱ型以上 <sup>※6</sup> 自立高の3%以内	
			断面寸法 <sup>※5</sup>			
			応 力 度			
			最大変位 <sup>※6</sup>			
	二重幅縮切工	設計対象水位	仮締切天端高			
			締切幅	セン断変形破壊		
		滑 動				
		基礎地盤の支持				
		円弧すべり				
		鋼矢板	根入長 <sup>※7</sup>			<sup>※7</sup> 受動モーメント = 安全率 × 主働モーメント 又は、3.0m以上で、どちらか大きい方 <sup>※8</sup> Ⅲ型以上
			断面寸法 <sup>※8</sup>			
			応 力 度			
引張材		間 隔		<sup>※9</sup> 最小28mm		
		材 質				
		断面寸法 <sup>※9</sup>				
		応 力 度				
腹起材		断面寸法				
		応 力 度				
遮水効果	浸透路長					
	特記事項					

# 仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（5 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。            ①砂質土            ②粘性土 N&gt;5            ③粘正土 N≤5</p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。            3. 水位を明示すること。            4. 設計地盤面を明示すること。            5. 土留杭の施工方法を明示する。</p> <p>6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。            7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

# 仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（6 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考		
		計 算 値	使 用 値			
路面覆工	設計荷重（対象車輛）				※1 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下	
	覆工板寸法					
	受	断面寸法				
		応力度				
		たわみ※1				
	桁受け	断面寸法				
		応力度				
	支持杭	断面寸法				
		応力度				
		支持力				
仮橋工	設計荷重（対象車輛）				※2 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下	
	幅 員					
	支 間					
	覆工板寸法					
	主	断面寸法				
		応力度				
		たわみ※2				
	横	断面寸法				
		応力度				
	橋脚	断面寸法				
応力度						
支持力						
特記事項						